

年度内解決を！ゆるぎない団結確認！ 2・15長野県集会



発行所
国鉄労働組合長野地方本部
長野市中御所3-2-22
発行者 太田克彦
編集者 清水孝次

2010年3月1日
第1467号

●国労加入を 大胆に訴えよう！

国労支援長野県共闘会議と地方本部は、2月15日、県労働会館において「JR不採用事件の早期解決をめざす長野県集会」を開催した。
「2・16中央集会」を前にし、地方から解決への機運を盛り上げるとともに更なる団結の強化を図るため、帯広闘争団の馬淵茂団長と音威子府闘争団の杉山均事務局長を招き、闘争団の現状と24年に及ぶ闘いの思いなどを述べてもらった。集会には100名が参加し、間近に迫った解決に向け、ゆるぎない団結で最後まで全力で闘いぬくことを確認しあった。

主催者を代表してあいさつする国労支援長野県共闘会議の高橋博久議長は「昨年暮れでホタテが5トンを超えた」と支援

物販の取り組み状況を報告した。過去23年の闘いにより解決の光が見えてきた。闘争団の3本柱「雇用・年金・解決金」を勝ち取るま



主催者を代表してあいさつする県支援共闘高橋議長

広と釧路に闘争団を分離。94年に立ち上げた事業体（スモークハウス）やアルバイトなどの収入で資金をつくり活動している。闘争団から町議会議員も送り出している。「生活貸付金は、闘争団でプールして、最高18万、最低5万、家族会でもアルバイトをして生活資金を蓄えてきた。既に3名が他界した」と語った。

最後に「地域の仲間は、『闘い続けているかぎり支援する』と支えてくれている。闘い続けられたのは支援者のおかげであり、これからは地域の仲間と連携していく」「2005年9月の不当労働行為を認める東京地裁判決を機に4者4団体が結束、団結した。24年を越えさせずに、雇用・年金・解決金の基本要求を政府に実現させる」と強い決意を述べた。

闘争団の報告と決意で、帯広闘争団の馬淵団長は「父も国鉄職員だった。子供の頃、家の近くに機関区があり、遊び場になっていたこともあり、自分もSLが好きで国鉄に入社した。入社時は、マル生闘争が盛んだった。安全を守るのは国労だと誇りをもって仕事をしていた。十勝青婦協議長を経験し、どこへ行っても誇りを持って仕事をしていた」と国鉄当時に振り返り、闘争団の現状を「92年に帯

音威子府闘争団の杉山事務局長は「不採用になったとき『紙切れ一枚』と言われていたが、音威子府では紙切れすらなく、口頭での通告だった」「トイレで『東京へ行かないか？』と言われたことが、今にして思えば就職の転機だったと思う」

両闘争団に檄を渡す
県支援共闘高橋議長



地方本部を代表してあいさつした太田克彦委員長は、「昨年の2・16集会は解決への集会、今年も解決の報告集会と位置付けて闘ってきた。23年もの長い闘いとなり、なかなか進まなかったが、やっと先が見えてきた。支援共闘の仲間と一致団結し、気を抜かず最後までがんばろう」と決意を述べた。

支援共闘からの決意表明で、アルピコ労組川中島バス支部の高橋洋書記長は「私的整理がされてから、多くの組合から檄布を頂き事務所に飾ってあるが、国労からの檄布が一番多く、勇気をもたらしている。国労は、団結の力で23年間闘ってこれたと思う。解決への出口が見えてきた、早期解決に向け共に頑張る」と述べた。

自治労長野県本部の村山智彦書記長は「国鉄分割民営化反対の五千万人署名が労働運動へのきっかけだった。自治労では、社保庁が解体され、年金機構となる、第二の国鉄改革が行われ、525人が解雇された。解決に向け連帯していく」と決意表明した。

最後に、長野地区支援共闘会議の神山勝議長が力強い団結カンパニーを行い、団結と闘いへの決意を新たに示した。

帯広闘争団
馬淵団長



音威子府闘争団
杉山事務局長



青年と大いに語り、組織拡大へ！

組織拡大交流学習会を開催

地方本部は、2月13日「組織拡大交流学習会」を開催し、45名が参加した。昨年は田本元委員長を招き学習交流を行ったが、今年は東日本本部の木村青対部長、新鶴見機関区の木村君を招き、来年度の新人社員の加入獲得と更なる組織拡大に向け学習、意思統一を行った。

吉澤組織部長の開会あいさつに続き、主催者あいさつに立った太田委員長は「青年と大いに語り合おう」と述べた。

~~~~~

**第1部は、分割民営化との闘いがつづられたDVD（『足跡20部』）を上映した。平成採用の組合員は「今では考えられないすさまじい闘いをしてきた国労の歴史**

史・重みを感じた」「当時の大変さをあらためて感じた。青年部中央行動の場面では、今の組織数を思うと羨ましかった」等の感想を述べた。

~~~~~

上京行動のなか駆けつけた美幌闘争団の長縄孝則団長が、分割民営化後の駅の現状とともに、自らの闘いを振り返り「子供たちが『解雇者の子供』として差別を受けたことが特に悔しい。そうした悔しさを、怒りを生み出した権力を許せない思いで闘い続けてきた」



2010/02/13

「思いを同じくする仲間が長野に、全国にいる。国労・支援共闘の仲間に、カンパ・物資だけでなく精神的にも支えていた。国労とはそういう組

織だ」「最終的に闘ってよかつたと、支援していただいた皆さんにキチンと返していきたい。そして国労の素晴らしさを伝えていきたい」と23年間の闘いの生の声を青年たちに伝えた。

~~~~~

**第2部は「青年と語る」と題して、青年部員の思いを述べてもらい、参加者から発言を受けた。**



東日本本部の木村青対部長は「平成5年に国労に加入し、八王子から高崎へ不当配転され7年半、やっと首都圏に帰ることができ、いまは千葉機関区新小岩派出に運転士として勤務している」「最大40名ほどいた青年部員が、平成一期採用が卒業し、現在20名。青年部は、学習会・夏季交流会・入社式行動等の取り組みを行っている。先輩たちがやっ

てきたことを継承し、意味ある行動にする努力をしている」「加入当時、全国に呼ばれ負担が大きかった経験から、各職場に出かけて行くようにしている」と自らと青年部の現状を報告し、青年部員に「国労の正しさを伝えてほしい。職場での疑問を単なる疑問で終わらせず、解決に向けて努力することを大事にしてほしい。最重要課題は組織拡大。青年部は、学んで、考え、大胆に行動する。運動は楽しくやろう」親組合員には、「青年部のサポートをよろしくお願いしたい」と訴えた。

意見交流で、長野運輸分会の神津分会長は、組織拡大にあたっての分会の取り組みを報告した。松崎青年部長は「現在青年部員は6名となった。貨物では10年くらい加入者が少ない。仲間との繋がりが大事。国労の暖かさを伝え、組織拡大につなげていきたい」と現状報告と決意表明をした。

木村君の国労加入のきっかけとなった貨物松本分会中山さんは「国労に入りた」と思ってもらえるようにするのが我々の行動」と新たな決意を述べた。

最後に諏訪書記長が「今日学んだことを職場で実践していこう」と集約した。

**第3部の懇親会を含め、青年部との有意義な交流ができた。新採を含めた更なる組織拡大への力が沸く集会となった。**

### 大雪に負けるな！飯山線への激励行動

2月8日、長野運輸分会・松本運輸分会・東北信支部・中南信支部が、冬期要員として飯山線の各駅に配転され、雪と格闘する仲間たちへの激励行動を行った。今年、近年にない大雪となり、見上げるほどの雪に圧倒されながら、見渡す限りの銀世界となった飯山線の各駅へ、カップ麺・ジュース・菓子・みかん等の差し入れを持って激励した。昨年5月に新採として2人目の国労加入をした坪井君も同行し、各駅で短時間であったが皆で激励の声を掛けた。

中南信支部は、11日に大飯山線にも激励に入った。飯山線は、支社境界の変



長野運輸分会 神津分会長



青年の思いを述べる 松崎青年部長



決意を述べる 貨物松本分会 中山さん

◆退職の際は、鉄道退職者の会への加入を！◆  
◎鉄道退職者の会 長野地方連合会  
電話 026-226-6658

◆交運共済からのお知らせ◆  
マイカー共済の新規加入を！  
◎全国交運共済生協 長野事業部  
電話 026-291-5057 JR:067-2583



十日町駅で



桑名川駅で

更による合理化提案もあり、雪と共に厳しい状況にある。冬期明けも含め組合員の希望を第一にしつかり取り組んでいく。